

大会長挨拶

放射線は、原子力エネルギーの平和利用ばかりではなく、医学、工学、農業・食料保存における放射線利用などを通じて、現代の文明生活に深く関わってきております。一方、学術的には放射線の性質、物質との作用、放射線の生体への影響等に関する研究、医学における診断・治療への応用研究、生命現象の解明をめざした研究及び地球環境を守るための研究が盛んに行われ、その成果が他の学問分野に影響を与えるとともに、社会への多大な貢献が期待されています。

さて、私どもは2007年(平成19年)11月14日(水)から11月17日(土)までの4日間、千葉市幕張メッセの国際会議場において日本放射線影響学会第50回大会を開催する運びとなりました。この度の第50回という記念すべき大会に当たり、今日までの研究の軌跡を顧みるとともに、研究の現状を俯瞰することにより、今後の放射線影響研究を展望する機会としたいと考えております。また、この2007年は、放射線医学総合研究所の設立50周年に当たります。こうした節目に相応しい内容と規模を整えるべく、私共関係者一同全力を上げて意義ある大会にしたいと思っております。会員の皆様および関係諸機関の方々には今後ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本放射線影響学会第50回大会

大会長 安藤 興一

放射線医学総合研究所